

第 4 章 資 料

1) 主要研究課題一覧

試 験 年 次	担 当 科	試 験 項 目
29~31 29~31, 37~38, 43 29~31, 39, 61~H1 29~31, 36 29~31, 34 29~36, 42~H5 29~38, 60~H1, 4~5 29~35, 43~44, 53~H5 29~35, 41~42, 63~H5 29~38, 42 29~40 29~33, 55, 57, 60, H2 29~33, 46	栽 培 栽 培 栽培・岩倉 栽培・岩倉 栽培・上板 栽培・上板 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫	カラタチ及び柚根接ぎ台に対する施肥量試験 柚台温州ミカン植え傷み防止試験 カンキツ類の落果調査および落果防止に関する試験 草生栽培試験 柿の摘蕾(果), 受粉・落果に関する試験 温州ミカン系統選抜および系統比較試験 温州蜜柑の貯蔵病害に関する試験 温州蜜柑黒点病菌の生態と防除試験 温州蜜柑そうか病防除試験 ミカンネセンチュウ類の生態及び防除試験 ヤノネカイガラムシ生態及び防除試験 ミカンハモグリガに関する防除試験 ミカントゲコナジラミの発生生態とシルベストリーコバチの放飼事業
29~31, 36~38 29~31, 34 29~33 29~31, 55~60 29~31, 39~46, H2~3 29~33, 37~42, 46	化 学 上 板 上 板 上 板 上 板 上 板	温州蜜柑園の葉分析 柿の花芽分化に関する試験 柿の生理落果の波相に関する調査 柿の脱渋技術(樹上・収穫後)の確立に関する試験 柿炭そ素病防除試験 梨赤星病及び黒星病に対する薬剤散布試験
32~33 32~33, 35 32~33 32~36 32~33 32~34 32~33, 39~45, 52~53 32~35, 41, 43, 53~55, 62, H1~3 32~36, H3 32~35 32~35 32~36, 39~40	栽 培 栽培・上板 栽 培 栽 培 病 虫 病 虫 病 虫 病虫・上板 病 虫 上 板 上 板 上 板	温州蜜柑の結果期の早晩が樹勢・収量に及ぼす影響について 温州ミカン, ナシ園土壌含水量の季節的変化について 柚及びキコク台温州の同化量に関する試験 栗選抜品種の特性調査 温州蜜柑の衰弱症に関する調査 温州蜜柑の台木と天牛被害との関係および防除試験 機械油剤散布時期による殺虫効果試験および果実品質・収量との関係 ミカンハダニ生態及び防除試験 カンキツのアブラムシに対する各種殺虫剤の効果 柿果実の蒂の機能に関する研究 柿果実の裂果に関する研究 落葉果樹に対する2,4,5-TPの実用化に関する試験
34~35 34~36, 41~52, H5 34~36, 43 34~35, 43 34~36 34, 44~46, 34~38 34, 36, H2, 3 34~40 34~41	栽 培 栽 培 栽 培 栽 培 栽 培 栽培・病虫 病 虫 病虫・県北・保護 化 学 化 学	柚及びキコク実生の耐水性に関する研究 温州蜜柑の貯蔵試験 温州蜜柑の浮皮に関する研究 柑橘の耐陰性(遮光)に関する試験 梅窩宿の特性調査 カンキツ果実の傷害果発生に関する調査 柑橘の枝枯(病)症の発生消長について 落葉果樹(ブドウ・モモ)に対する吸蛾類の飛来消長及び果実被害防止試験 温州蜜柑の磷酸施肥に関する研究 温州蜜柑に対する緩効性窒素施肥試験
35~36 35~36 35~38	上 板 上 板 上 板	早生桃の摘蕾・摘果効果試験 葡萄に対する吸収蛾忌避剤の効果試験 ブドウトラカミキリ虫の発生調査

試 験 年 次	担 当 科	試 験 項 目
36～42, 52, 54～57 36～43 36, 53～H5 36～38, 41, 48, 50, H5 36 36, H4 36～40	栽培・病虫 ・岩倉 栽 培 栽 培 栽 培 病 虫 病 虫 化 学	カンキツ類の寒害防止および被害回復試験 柑橘育種適応試験 スダチの貯蔵試験 スダチの薬剤散布による果実肥大並びに着色抑制試験 ミカンネカイガラムシに対する防除試験 ミカンサビダニ防除試験及び各種薬剤に対する感受性 温州蜜柑のマンガン欠乏対策試験
37～38 37～50 37～38, 41 37～38, 42 37 37～48 37～42 37～48 37～38 37～41, 43 37～38 37～38, 43～45 37～38, 42～43 37～42 37, 43, 46～47, 51 37, 41～42, 45～46, 48～55, 61～63	栽 培 栽培・岩倉 栽 培 栽 培 栽 培 病 虫 化 学 化学・上板 ・岩倉 化 学 上 板 上 板 上 板 上 板 栽培・岩倉 栽培・県北 ・岩倉	温州ミカンの早期採収時期試験 カンキツ園の除草剤利用に関する研究 ユズ台温州ミカンの水分生理に関する研究 温州ミカンの水田転作による問題点の究明および施肥試験 加温による温州ミカンの育苗に関する研究 サンホーゼカイガラムシの発生生態および防除に関する研究 温州ミカンの生育障害と無機成分に関する研究 温州ミカンに対する土壌改良剤施用試験 温州ミカンの異常落葉に関する研究 葡萄晩腐病防除試験 ブドウに対する石灰窒素散布による萌芽促進試験 落葉果樹（モモ、ウメ、スモモ）に対するジベレリン利用試験 コスカシバの生態と防除試験 落葉果樹の細菌性穿孔病に対する薬剤防除試験 カンキツの挿木育苗に関する研究 八朔の貯蔵試験
39～41 39～56, 58～61 39, 42 39～40, 47 39～45, 47～49, 52～53, 56 39～40, 42, 48～49 39～40, 52 39～40 39～42, 46～47, 58 39～44	栽 培 栽培・岩倉 栽 培 病 虫 病虫・岩倉 病 虫 病 虫 化 学 上 板 上 板	急傾斜ミカン園のモノレール利用試験 温州ミカンの薬剤摘果試験 青梅の鮮度保持に関する試験 坂本地帯の柑橘衰弱症に関する調査 八朔萎縮病に関する研究 施用肥料成分の差異が温州ミカン葉内成分およびミカンハダニの 生息消長に及ぼす影響について 梨樹園のセミ幼虫加害実態調査 温州ミカンの生育に及ぼす肥料の形態に関する研究 梨輪紋病の感染時期調査及び防除試験 温州ミカンに対する燐酸施用量試験
41, 43～48 41 41, 44, 47, 52, H2～3 41～42 41～49, 59 41～42 41～42 41～42 41～42 41～42 41～42 41～49 41, 43	栽 培 栽 培 栽 培 栽 培 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 化 学 上 板 上板・岩倉	スプリンクラー利用による液肥施用試験 ユズ台・カラタチ台温州ミカンの成木移植と苗木定植の経年的収 量調査 ユズ系統選抜試験 梅早期落葉（摘葉処理）が花・果実および樹体栄養に及ぼす影響 温州萎縮病に関する研究 黒点類似症に関する調査 八朔ヤニ果症に関する調査 甘夏柑のハウ素欠乏に関する調査 ヤノネカイガラムシに対する硫酸亜鉛加用石灰硫黄合剤の接触的 防除効果について 温州ミカンに対する硫酸苦土施用試験 ミカン園の土壌管理方法に関する試験 八朔の訪花昆虫防除試験
42, 44～45 42～44 42～52 42～44, 51, 60, H2	栽 培 病 虫 化 学 病虫・上板	土壌の乾湿が早生温州ミカンの品質に及ぼす影響について ルビーアカヤドリコバチの放飼に関する事業 阿讃山麓和泉砂岩土壌における温州蜜柑の施肥合理化試験 ウメ・ナシ黒星病の防除試験及び薬剤耐性検定

試 験 年 次	担 当 科	試 験 項 目
43～50 43,48～61 43 43～50,52～53 43～48 43～44,57	栽培・上板 病虫 上板 上板 岩倉	硝酸石灰施用試験 温州ミカンの改植・更新に関する試験 ミカンの根腐れ衰弱病に関する調査 ハマキムシ類の生態に関する研究 温州ミカン園の薬剤防除と病害虫相および品質との関係 カンキツ類（早生温州，ハッサク，スダチ）のハウス栽培試験
44～50,54～55,52～H5 44～55 44,47,50,55～56,58～62 44～45 44～45 44～47,50～52,H2～5 44～46,48～50 44～55	栽培・岩倉 病虫 病虫 化学 上板 上板 保護 保護 保護	ユズの貯蔵に関する試験 カンキツのウイルス病に関する試験 カンキツかいよう病の生態的防除に関する試験 カンキツの酸度矯正に関する試験 和ナシ長十郎の生理障害果に関する研究 ウメの生理障害果の発生防止に関する研究 ハッサク採収合理化（もぎとり）試験 カキ系統適応性試験
45～46,63～H2 45 45,48～51 45 45,53～H1 45 45～46 45～60 45～49,53～57 45～53,57～59	栽培・上板 病虫 病虫 上板 上板 病虫・上板 上板 上板 上板・岩倉 ・栽培 上板	温州ミカンに対する植調剤の利用試験 ウメの振動収穫試験 ハダニの防除体系と生息生態及び被害解析 ユズの stem pitting 病の症状と病原 Virus 落葉果樹に対するホルモン剤の利用試験 ハウスブドウ栽培におけるジベレリン処理適期把握 栗毬果の生物相に関する調査 落葉果樹に対する農薬の防除効果試験 八朔に対する摘果剤・離層形成剤散布試験 ハッサクに対する各種肥料施用試験
46,51～54 46～50 46～50 46,48～49,52	栽培・培 化学 上板 上板	十万温州の特性調査 窒素の施用時期と供給形態に関する試験 スプリンクラーによる梨園の薬剤散布，施肥，灌水の装置化試験 ビワの生理障害果に関する研究
47～H1 47～48,51～57 47～51,54～H5 47～48 47 47～48,51～52	栽培・培 栽培 栽培 病虫 化学 上板	温州ミカンの品質向上に関する試験 温州ミカンの垣根整枝（柵仕立て）による総合栽培技術の組立試験 中晩柑類の系統比較試験 温州ミカン園の防除体系とその生物相および実用性について 石灰の形態と有機物の施用に関する試験 アズノ日焼け症状果に関する研究
48,63,H3 48,50～54 48～52 48～58 48～49,56～61 48～51 48～49 48～56 48～50 48～52 48,52	栽培・化学 ・母樹 栽培・培 栽培・化学 病虫 病虫 化学 化学 化学 上板 上板 岩倉・上板	カンキツ類（早生温州・ハッサク）のマルチ栽培試験 温州ミカンの着花予測に関する試験 ユズ施肥試験 温州ミカンの腐敗防止試験 カンキツそうか病防除試験 土壌酸度と台木別の品質，貯蔵性 スダチの苦土欠乏症状対策試験 温州ミカンに対する鶏糞施用量・土壌改良効果試験 早生ナシの立体的垣根仕立て 中部以西山間地域における赤ナシ新水の均質生産に関する研究 八朔の花粉交配および受粉樹混植に関する試験
49～50 49～51 49～51,63 49～63 49 49～52 49～51,56 49,51	栽培・培 栽培 栽培 化学 上板 上板 上板 上板	ネーブルの貯蔵試験 密植園の整枝・剪定試験 温州ミカンの樹上越冬が果実の品質，翌年の着花量に及ぼす影響 施肥ならびに塩基・土壌管理に関する試験 訪花昆虫ミツバチの和ナシへの利用試験 ナシヒメシンクイに対するフェロモンの利用試験 わい性（スパー）平核無の特性調査 訪花昆虫シマハナアブによる受粉効果試験

試 験 年 次	担 当 科	試 験 項 目
50～51 50～51,54 50 50～52 50～51,55,58～61	病 虫 化 学 化 学 上 板 岩倉・県北	自動走行微量散布機によるエルサン乳剤の濃厚小量散布とヤノネカイガラムシに対する防除効果試験 スタチの黄変落葉対策試験 早生温州の早熟化試験 ハウスブドウの熟期促進に関する試験 八朔の品質向上に関する試験
51～52 51～59 51 51～55 51	栽 培 病 虫 化 学 上板・岩倉 上 板	スプリンクラー施肥が品質・収量に及ぼす影響 和ナシの枝幹病害に関する調査 早生温州に対する各種リン酸液の葉面散布試験 スタチの生産安定・周年出荷体系に関する研究 ナシ果実を加害するカメムシ類の発生消長
52,56,62～H1	化学・病虫	ユズのかいよう性虎斑症の原因解明・被害軽減に関する試験
53～56,59～H5 53～54 53～58 53～55,57～H5 53～63 53～56 53～55 53,55～56	栽 培 病 虫 化 学 化 学 化 学 上 板 上 板 上 板	温州ミカンの施設栽培に関する研究 緑かび病菌の薬剤耐性試験 下水処理汚泥の樹園地利用に関する試験 各種の生理障害に関する調査 ヤマモモの生理・生態に関する研究 山間高冷地におけるクリ栽培現地試験 柿に対する鮮度保持剤利用試験 テラウェアのジベレリン散布の省力化
54,H2～3 54 54～56 54～56 54～58,62～H5 54～55 54～57	栽 培 病 虫 上 板 上 板 母樹・岩倉 岩 倉 岩 倉	チャンドラポメロの特性調査と受粉試験 カキ胴枯症状の病原調査 落葉果樹にたいする家畜糞尿の有効利用 キウイフルーツの地域適応試験 八朔を中間台とした更新方法および中晩柑類の高接試験 キウイフルーツの挿し木試験 クリ苗木のクリタマバチ防除試験
55～H5 55～56,59～61,63 55～H1,4～5 55～60 55,H3～5	栽 培 病虫・保護 化 学 化学・上板 上 板	十万温州の生産安定・品質向上に関する研究 ブドウのつる割れ病に関する調査 香酸カンキツの高品質・生産安定に関する研究 地域農業複合化推進試験研究 柿の低樹高仕立て栽培試験
56～61 56,H3 56～H1 56,58,63～H4 56～57 56～57	栽 培 病 虫 病 虫 病虫・保護 上 板 岩 倉	ウメの生産安定に関する試験 ユズの凹陷性幹腐症状に関する調査及び薬剤の治療効果 ヤマモモのカキノキカキカイガラムシによる被害状況・生態・防除に関する試験 カキの汚染果(障害果)の発生生態・病原調査および防止対策 モモのガク片の作用機作について カンキツ類の特性調査
57～63 57～59 57～60,62 57～H5 57～60,H3～5 57～H2 57,H1～5 57～59 57～61,63 57～60 57～60 57～60	栽 培 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 化 学 上 板 栽 培・落葉 上 板 上 板 上 板	中晩柑類の施設栽培試験 ウメの枝枯れ症状の病原調査 弱毒化したユズのかいよう性虎斑症発生調査 中国から導入したヤノネカイガラムシの寄生蜂による生物的防除試験 カンキツにおける主要カイガラムシの在来天敵に関する調査 弱毒ウイルス利用によるハッサク、ユズの無病母樹の確立 ハウスミカンの栄養診断と実態調査 葡萄に対するストレプトマイシン剤による無核化・果実肥大について キウイフルーツの貯蔵試験 和泉砂岩土壌における果樹の安定生産に関する研究 カキクダアザミウマの生態と柿樹の被害 ナシ幸水の果実肥大と熟期促進に関する試験

試 験 年 次	担 当 科	試 験 項 目
58 58~59,63 58 58~60 58~61, H1 58 58~59, H3 58~H2 58~H5 58,60,62~63	栽 培 病 虫 病 虫 病 虫 化学・県北 県 北 県 北 県 北 県 北 県北・母樹	ユズ・スダチに対する摘果剤試験 ウメ・ブドウ灰色かび病菌の薬剤耐性調査 キウイフルーツの立ち枯れ症の原因調査 キウイフルーツの貯蔵軟腐病の原因調査 ハウスモモ・水田転換ナシ葉のクロロシスに関する研究 平核無カキの幼果期におけるタテ線発生機構の解析について ナシ三角波状棚整枝法および栽培技術の確立 スダチの育種に関する試験 ナシ・イチジク白紋羽病の薬剤防除試験 八朔・甘夏の樹上越冬試験
59~62 59~60, H2 59~H5 59 59~60 59~63	栽 培 栽 培 化 学 上 板 上 板 上 板	香酸柑橘類（ユコウ・スダチ）の品質の経時変化 阿波オレンジの特性調査 十万温州の生産安定と品質向上に関する研究 ナシ豊水のミツ症状に関する研究 スモモの棚栽培に関する試験 キウイフルーツ・スモモの人工受粉に関する研究
60~61 60~61 60,63~H2 60~H3 60~H2 60~62 60~H2	病 虫 病 虫 化学・県北 県 北 県 北 県 北 県 北	健全母樹より育成された八朔樹のステムピッチング病発生調査 落葉果樹類の枝幹病害に関する研究 落葉果樹の栄養診断 モモの整枝法に関する試験 阿讃開発果樹園の早期熟畑化および成園化に関する研究 ハッサクの石灰施用量試験 ナシ萎縮病の接ぎ木伝染性調査
61~62 61,63~H1 61~62 61 61~63, H2~5 61~63, H2~5 61 61~H3 61~H1 61,63	栽 培 病 虫 病虫・保護 病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 県 北 県 北 県 北	高接による新品種適応性調査 スダチの白点隆起症の発生原因調査 ブドウの果実腐敗病に関する試験 ユズのカイガラムシ類とその天敵 ヤマモモ果実を加害するショウジョウバエに関する研究 ウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシの生態と天敵に関する調査 カンキョトリステザウイルス弱毒系統によるユズのステムピッチング病防除試験 暖地におけるリンゴの特性と栽培技術に関する試験 八朔の地帯別品質調査 キウイフルーツの種子発芽試験
62, H4 62, H2~4 62, H1~2 62~H5 62~H2 62~H1	栽 培 栽培・化学 病 虫 母 樹 保 護 保 護	中国導入品種育成試験 早生温州の越年完熟果栽培と夏肥施用試験 ヤマモモこぶ病の発生生態・防除に関する試験 スダチの灌水試験 モモのいぼ皮病防除試験 スダチ園の土壌改良に関する試験
63, H1, 4 63 63~H3 63~H5 63 63 63~H2 63, H1 63 63 63	病 虫 病虫・保護 化 学 落葉・母樹 落 葉 落 葉 母 樹 母 樹 保 護 保 護 保 護	スダチの傷害果の原因究明に関する試験 キウイフルーツの花腐細菌病防除試験 温州ミカンに対する石灰窒素施用試験 ナシのハウス栽培技術の確立 キウイフルーツの枝幹部とっくり症状の原因調査 大粒系ブドウの無核化に関する試験 和泉砂岩地帯の土壌改良に関する試験 落葉果樹（ハウスナシ、カキ、リンゴ）の栄養診断 モモの縮葉病防除試験 ナシの枝枯れ病菌の宿主植物とその病原性 核果類灰星病の薬剤耐性試験

試 験 年 次	担 当 科	試 験 項 目
H1～5 H1～2 H1～5 H1～2 H1～5	栽 培 病 虫 病 虫 病 虫 化 学	水分制御による花芽分化促進技術の確立 ハランナガカイガラムシの生態と防除に関する試験 ゴマダラカミキリムシの生態と防除に関する試験 クロトンアザミウマの発消長に関する試験 高糖系温州のビニールマルチによる品質向上と生産安定技術の確立
H1～5 H1～ H1～5 H1 H1～5	化 学 落 葉 母 樹 母 樹 保 護	十万温州の新系統作出に関する試験 ブドウの二段整枝に関する試験 スダチの台木試験 チャンドラポメロのステムピッチング調査 和泉砂岩地帯における柿の栄養生理に関する試験
H2～5 H2～5 H2～5 H2～5 H2～3,5	落 葉 落 葉 母 樹 母 樹 保 護	モモ・ナシの鮮度保持に関する試験 モモのブロック・ベット栽培 スダチの系統選抜 ユズの無加温ビニールハウス栽培試験 強酸性ナシ園の実態調査および土壌改良試験
H3 H3 H3 H3～ H3～5 H3～5 H3 H3～5 H3～5 H3～ H3～	病 虫 病 虫 病 虫 病虫・化学 化 学 栽 培・母樹 母 樹 保 護 保 護 保 護 落葉・保護	輸出温州蜜柑の黒点病防除試験および残留量の調査 カンキツに対する殺虫剤散布と昆虫相の動き ミノムシに対する各種殺虫剤の効果 温州ミカンの減農薬栽培に関する研究 ハウスミカンの栄養診断 中晩柑の無加温ハウス栽培試験 スダチ珠心胚実生の果実品質調査 ウメの低樹高仕立てに関する試験 カキの灌水および土壌被覆資材処理（マルチ）試験 カキハウス栽培技術確立 カキ紅葉品種の特性調査および紅葉の貯蔵試験
H4～5 H4～ H4～5 H4 H4～5 H4～ H4～5 H4～5 H4～8	病 虫 病 虫 病 虫 病 虫 化 学 化 学 落 葉 落 葉 落 葉	カンキツ褐色腐敗病に対する各種薬剤の効果 カンキツ優良系統が保毒するウイルス調査 香酸カンキツ類農薬安全使用対策事業 ナシのミカンハダニに対する殺ダニ剤の効果 カンキツ類（早生温州・ユズ）に対するマルチ栽培試験 燐酸削減試験 ナシの土壌被覆による品質向上 ワイン用ブドウ品種比較試験 担い手に魅力ある傾斜地果樹の軽労働・省力生産システムの開発
H5～ H5 H5 H5 H5～ H5 H5	病 虫 病 虫 病 虫 化 学 化 学 落 葉 保 護	タターリーフウイルスの系統比較試験 ヤマモモに対するわい化剤施用試験 ナメクジ忌避剤の効果試験 ミカンのロックウール栽培 スダチに対する燐酸苦土肥料の施用効果 GA無核処理巨峰の高品質果実生産指針の確立 カキ果実の袋掛け（着色促進・樹上完熟）試験

2) 研究業績一覧

(1) 原著 (発表年次順)

1. 前田 知・城浦治男 (1954).
花木類の自発休眠に関する研究(第1報)
自発休眠後期と挿木適期.
農業及園芸 29(11):1441-1442.
2. 前田 知・吉岡正八 (1955).
柿の断根に関する一観察.
農業及園芸 30(4):593-594.
3. 前田 知・多田良行 (1955).
柿炭疽病の冬芽越冬.
農業及園芸 30(11):1499-1500.
4. 前田 知 (1956).
柿炭疽病の冬芽越冬の経路.
農業及園芸 31(2):347-348.
5. 宮川経邦・森下 実 (1957).
本邦における柑橘根線虫の分布について.
植物防疫 11(5):182-184.
6. 宮川経邦 (1958).
Penicillium digitatum 胞子の発芽を促進する柑果皮成分について.
日植病報 23(3):121-126.
7. 宮川経邦 (1958).
温州蜜柑の緑かびおよび青かび病に関する研究(第1報)貯蔵果実に対する感染および発病経過について.
園芸学会雑誌 27(3):179-185.
8. 宮川経邦 (1958).
温州蜜柑の緑かびおよび青かび病に関する研究(第2報)病原菌の生育に及ぼす温州蜜柑果実の成分について.
日植病報 23(4):193-198.
9. 宮川経邦 (1959).
温州蜜柑の緑かびおよび青かび病に関する研究(第3報)病原菌に対する柑果皮成分の生育促進作用について.
日植病報 24(5):281-286.
10. 前田 知・吉田清一・城浦治男 (1959).
柿果実の蒂の機能に関する研究(第1報)
柿果実特に蒂部の形態学的観察.
農業及園芸 34(2):379-380.
11. 前田 知・多田良行 (1959).
柿果実の蒂の機能に関する研究(第2報)
柿果蒂片の除去が果実の肥大成長及び落果に及ぼす影響.
農業及園芸 34(4):675-676.
12. 前田 知・塩田芳之 (1959).
柿果実の呼吸に関する研究(第1報)柿果実呼吸量の季節的变化.
農業及園芸 34(6):977-978.
13. 前田 知・塩田芳之 (1959).
柿果実の呼吸に関する研究(第2報)脱渋処理に於ける柿果実の呼吸について.
農業及園芸 34(9):1431-1432.
14. 前田知・吉田清一・城浦治男 (1959).
柿果実の呼吸に関する研究(第3報)柿果貯蔵中の糖度, 硬度, 減量歩合と呼吸作用との関係.
農業及園芸 34(11):1727-1728.
15. 前田 知 (1961).
柿果実の離層の発達に関する研究—離層形成に関する一仮説の提案—
農業及園芸 36(4):704-706.
16. 宮川経邦 (1962).
温州蜜柑の緑かびおよび青かび病に関する研究(第4報)病原菌の pectin 分解力およびC源としての利用.
日植病報 27(3):129-137.
17. 宮川経邦 (1962).
温州蜜柑の緑かびおよび青かび病に関する研究(第6報)果実の発病ならびに病斑進展に及ぼす pH の影響.
園芸学会雑誌 31(4):347-350.
18. 宮川経邦 (1963).
温州蜜柑の緑かびおよび青かび病に関する研究(第5報)罹病果皮組織における pectin 分解と d-galacturon 酸の作用.
日植病報 28(1):17-23.

19. 前田 知・福居幸治・多田良行・城浦治男 (1963).
 富有柿の季節的乾燥処理と果実の肥大生長—電気伝導水分計による灌漑適期の把握—.
 農業及園芸 38(6) : 977-978.
20. 前田 知・城浦治男・広川升一 (1963).
 梨(長十郎)に対するRP剤の利用試験(第1報)RP剤の種類,濃度,散布時期と熟期促進効果との関係.
 農業及園芸 38(8) : 1271-1272.
21. 安達義正・中川正視・音井 格 (1965).
 温州ミカンの水田転作における問題点の究明.
 全購連編:果樹に関する土壤肥料研究収録:77-80.
22. 安達義正・中島芳和・堀金正己 (1966).
 ユズ台およびカラタチ台温州ミカンの生育ならびに果実の収量と品質に及ぼすリン酸施肥の影響.
 園芸学会雑誌 35(2) : 98-105.
23. 安達義正・中川正視 (1967).
 ユズ台温州ミカンの水分生理に関する研究.
 徳島果試研報 1 : 1-24.
24. 安達義正・大和浩国 (1967).
 ユズ台およびカラタチ台温州ミカンの生育におよぼす窒素および燐酸源の異なる肥料形態の影響.
 徳島果試研報 1 : 25-37.
25. 森岡節夫・山本弥栄 (1967).
 温州ミカン果実の貯蔵性に関する研究(1)果実減量の個体変異と貯蔵性との関係.
 徳島果試研報 1 : 39-46.
26. 賀川 実 (1967).
 ヤノネカイガラムシの生態に関する研究(1)ヤノネカイガラムシの生態に関する調査.
 徳島果試研報 1 : 47-58.
27. 山本弥栄・黒上九三郎・森岡節夫 (1967).
 果樹園の除草剤利用に関する研究(1)果樹の生育におよぼす除草剤の影響.
 徳島果試研報 1 : 59-70.
28. 前田 知・多田良行・城浦治男・村上 来 (1967).
 柿炭そに対する柿品種の抵抗性差異ならびに薬剤防除に関する研究.
 徳島果試研報 1 : 71-81.
29. 賀川 実 (1968).
 ヤノネカイガラムシの生態に関する研究(2)第2世代幼虫発生時期が翌年第1世代幼虫発生におよぼす影響.
 四国植防研究 3 : 69-71.
30. Miyakawa, T. (1968).
 Susceptibility of trifoliolate orange and some other citrus varieties to Satsuma dwarf virus. (温州萎縮ウイルスに対するカラタチおよび他のカンキツ品種の感受性)
 p.153-159. In J.F.L. Childs (ed.) Proc. 4th Conf. Intern. Organization Citrus Virol. Univ. Florida Press, Gainesville..
31. 宮川経邦・大和浩国 (1969).
 徳島県におけるハッサク萎縮病の実態.
 徳島果試研報 2 : 1-13.
32. 山本弥栄・森岡節夫・真鍋 紘 (1969).
 温州ミカンの秋期の根群活動調査.
 徳島果試研報 2 : 15-30.
33. 前田 知・村上 来 (1969).
 ウメ新品種「月世界」について.
 徳島果試研報 2 : 31-34.
34. 宮川経邦 (1969).
 温州萎縮病ウイルスに対する *Citrus* 属および近縁植物の感受性と病徴.
 日植病報 35(3) : 224-233.
35. Baines, R.C.,Miyakawa, T.,Cameron, J.W. and Small, R.H.(1969).
 Infectivity of two biotypes of the citrus nematode on citrus and on some

- other hosts. (ミカンネセンチュウの2つの生態型のカンキツおよび他の寄主に対する寄生性)
 Jour. Nematology 1 (2) : 150-159.
36. Baines, R. C., Miyakawa, T., Cameron, J. W. and Small, R.H.
 Biotypes of the citrus nematodes. (ミカンネセンチュウの生態型)
 Proc. 1st International Citrus Symp. Vol. 2, 955-956.
37. 大和浩国 (1970).
 ハッサクヤニ果症の実態とほう素施用の試み.
 徳島果試研報 3 : 1-11.
38. 安達義正・山本弥栄・柴田精治 (1970).
 温州ミカン貯蔵庫様式の比較試験.
 徳島果試研報 3 : 13-22.
39. 宮川経邦 (1971).
 徳島県下に発生したミカンの根ぐされ衰弱症 (仮称).
 植物防疫 25(2) : 70-74.
40. 宮川経邦 (1971).
 ハッサク罹病樹に保毒される tristeza (stem pitting) virus に対するカンキツ品種の反応.
 徳島果試研報 4 : 1-15.
41. 大和浩国・宮川経邦 (1971).
 トリステザ感受性カンキツ属植物の栄養状態におよぼすハッサク萎縮ウイルスの影響.
 徳島果試研報 4 : 17-29.
42. 賀川 実 (1971).
 徳島県の温州ミカンにおけるサンホーゼカイガラムシの幼虫発生について.
 徳島果試研報 4 : 31-40.
43. 行成正昭 (1971).
 徳島県のナシ園におけるハマキガ類の発生消長の観察例.
 応動昆 15(4) : 266-269.
44. Yamato, H. (1971).
 The perfect stage of citrus melanose fungus in Japan. (日本におけるカンキツ黒点病菌の完全時代)
 Ann. Phytopath. Soc. Japan. 37(5) : 355-356. 1pl.
45. Chen, M., Miyakawa, T., and Matsui, C. (1971).
 Tristeza virus in *Citrus reticulata* and *C. tankan*. (ポンカンおよびタンカン組織内のトリステザウイルス粒子)
 Phytopath. 61(3) : 279-282.
46. Chen, M.H., Miyakawa, T., and Matsui, C. (1971).
 Mycoplasma-like bodies associated with likubin-diseased ponkan citrus. (リクピンに罹病したポンカン組織にみられるマイコプラズマ様微生物)
 Phytopath. 61(5) : 598.
47. Chen, M.H., Miyakawa, T., and Matsui, C. (1972).
 Simultaneous infections of citrus leaves with tristeza virus and mycoplasma-like organism. (カンキツ葉におけるトリステザウイルスとマイコプラズマ様微生物の複合感染)
 Phytopath. 62(6) : 663-666.
48. Miyakawa, T. (1972).
 Reaction of some citrus and herbaceous plants to Satsuma dwarf virus strains. (温州萎縮ウイルスに対するカンキツおよび草本植物の反応)
 p. 65-71. In W.C.Price(ed.) Proc. 5th Conf. Intern. Organization Citrus Virol. Univ. Florida Press, Gainesville.
49. Chen, M.H., T.Miyakawa, and C. Matsui (1973).
 Citrus likubin pathogens in salivary glands of *Diaphorina citri*. (ミカンキジ

- ラミ唾腺内のカンキツリクビンの病原体—英文—
Phytopath. 63(1) : 194—195.
50. Miyakawa, T., H. Tanaka and C. Matsui (1974).
Studies on citrus greening disease in southern Japan. (わが国の南部地域におけるカンキツグリーンニング病の研究—英文—)
P. 40—42. In L. G. Weathers & M. Cohen (eds.), Proc. 6th Conf. Intern. Organization Citrus Virol. Univ. Calif. Div. Agric.
51. Tachikawa, T. and M. Yukinari (1974).
Parasites of *Goniozus japonicus* ASHMEAD (Hymenoptera: Bethy lidae) in Shikoku. (四国におけるハマキアリガタバチの寄生蜂—英文—)
Trans. Shikoku Ent. Soc. 12(1—2) : 45—46.
52. 定作 昭・行成正昭・黒上九三郎 (1974).
土壤管理法が温州ミカン若木の生長、収量、品質に及ぼす影響。
愛媛果試編：温暖寡雨地帯におけるカンキツの品質改善に関する研究 (中核試験共同研究) : 128—132.
53. 和田英雄・秋成 昇・定作 昭・行成正昭 (1974).
チッ素施用量と温州ミカン若木の収量、品質に関する試験。
(同上) : 168—172.
54. 和田英雄・堀金正己・定作 昭・黒上九三郎 (1974).
リン酸施用法と温州ミカン若木の収量、品質に関する試験。
(同上) : 173—177.
55. 佐金信治・山本弥栄 (1974).
子措の程度が貯蔵中の果実の品質に及ぼす影響。
(同上) : 219—222.
56. 佐金信治 (1974).
NAA の散布が果実の品質と貯蔵性におよぼす影響。
(同上) : 245—249.
57. 長谷部秀明・佐金信治 (1974).
採収前硫黄合剤散布が果実の着色・品質および貯蔵性におよぼす影響。
(同上) : 249—253.
58. 佐金信治・中川正視 (1974).
簡易テントの貯蔵性について。
(同上) : 128—132.
59. 宮川経国 (1975).
カンキツの接木異常症とウイルス。
植物防疫 29(9) : 31—36.
60. Miyakawa, T. and C. Matsui (1976).
A bud-union abnormality of Satsuma mandarin on *Poncirus trifoliata* rootstock in Japan. (わが国におけるカラタチ台温州ミカンの接木部異常—英文—)
p. 125—131. In E. C. Calavan (ed.), Proc. 7th Conf. Intern. Organization Citrus Virol. Univ. Calif. Riverside.
61. Yamato, H. (1976).
A species of *Diaporthe* pathogenic to citrus. (カンキツに病原性を有する *Diaporthe* 属菌の一種—英文—)
日植病報 42(1) : 56—59. (Ann. Phytopath. Soc. Japan 42(1):56—59.)
62. 行成正昭 (1976).
徳島県におけるリンゴコカクモンハマキおよびチャノコカクモンハマキ幼虫の寄生性天敵。
応動昆 20(1) : 15—20.
63. 行成正昭 (1976).
ナシ園におけるリンゴコカクモンハマキとチャノコカクモンハマキに関する研究
1 両種の非休眠幼虫の頭部成長について。

- 四国植防研究 11: 1-5.
64. 行成正昭 (1976).
ナシ園におけるリンゴコカクモンハマキ
とチャノコカクモンハマキに関する研究
2 両種の越冬習性の比較.
四国植防研究 11: 7-13.
65. 長谷部秀明・佐信信治 (1976).
早生温州ミカンの糖・酸含量とその変動.
徳島果試研報 5: 1-11.
66. 定作 昭・行成正昭 (1976).
ハッサク果実の手もぎ採収法に関する研究.
徳島果試研報 5: 13-30.
67. 宮川経邦 (1976).
Tristeza virus によるユズ, *Citrus junos*
Sieb. ex Tan., の衰弱症状.
徳島果試研報 5: 31-41.
68. 賀川 実 (1976).
温州ミカンに対するマシン油乳剤の散布
時期.
徳島果試研報 5: 43-49.
69. 柴田精治・村上 来・行成正昭 (1976).
スプリンクラー利用によるナシ園の病害
虫防除に関する研究.
徳島果試研報 5: 51-73.
70. 村上 来・前田 知・黒上九三郎 (1976).
ウメの樹脂障害果の発生原因と防止に関
する研究.
徳島果試研報 5: 75-96.
71. 村上 来・前田 知・黒上九三郎 (1976).
平核無の変異樹とその特性調査.
徳島果試研報 5: 97-102.
72. 行成正昭 (1976).
ハマキアリガタバチの生態的特性に関す
る研究
徳島果試研報 5: 103-114.
73. 行成正昭 (1976).
ナシ園におけるリンゴコカクモンハマキ
とチャノコカクモンハマキに関する研究
3 ナシ葉におけるリンゴコカクモンハ
マキ幼虫の加害習性.
徳島果試研報 5: 115-116.
74. 行成正昭 (1976).
徳島県のナシ園およびその付近の生垣に
おけるハマキガ類の寄生性天敵.
応動昆 20(4): 208-211.
75. 行成正昭 (1977).
人工飼料飼育のチャノコカクモンハマキ
幼虫によるハマキアリガタバチの飼育.
応動昆 21(2): 108-110.
76. 宮川経邦 (1977).
カンキツにおける接木部異常症の病原ウ
イルスとその分布状況.
植物防疫 31(10): 395-398.
77. 宮川経邦 (1977).
わが国のカンキツに保毒されるトリスト
ザウイルスの系統.
徳島果試研報 6: 1-7.
78. 脇川勝美・酒井正勝・藤田和男 (1977).
さし木によるハッサク自根苗木の育成.
徳島果試研報 6: 9-19.
79. 脇川勝美・酒井正勝・藤田和男 (1977).
ハッサク自根苗の発育調査.
徳島果試研報 6: 21-25.
80. Yamato, H. (1977).
Citrus melanose and its related disease
in Japan. (日本におけるカンキツ黒点
病ならびにそれに近縁な病害)
Proc. Inst. Soc. Citriculture 3:
997-998.
81. 赤井昭雄・柴田精治・中川正視 (1978).
テラウエアブドウの生育に及ぼすポリリ
ン酸系葉面散布剤の休眠期処理の影響.
徳島果試研報 7: 23-31.
82. 佐金信治 (1978).
温州ミカンの採収時期の遅延が果実の品
質および翌年の着花量に及ぼす影響.
徳島果試研報 7: 1-6.
83. 柴田精治・赤井昭雄・黒上九三郎・中川正視
(1978).

- ニホンナシ「新水」の栽培特性と果実の日持ちに関する研究。
徳島果試研報 7 : 7-22.
84. 和田英雄 (1978).
ヤマモモ樹の生理生態に関する研究。
第1報 ヤマモモ (品種よがわち) の果実発育ならびに成熟期の形質
徳島果試研報 7 : 33-40.
85. 行成正昭 (1978).
徳島県のナシ園におけるハマキガ類の誘殺消長。
四国植防研究 13 : 21-27.
86. 行成正昭 (1978).
徳島県のナシ園およびその周辺生垣におけるハマキガ類の卵寄生蜂キイロタマゴバチの寄生状況。
徳島果試研報 7 : 41-45.
87. 宮川経邦 (1979).
カンキツリクピン (グリーンニング病) の病徴発現に及ぼすペニシリンおよび2, 3 抗生物質処理の影響。
日植病報 45 (3) : 401-403.
88. 宮川経邦 (1979).
カラタチ台水晶ブントンの接木部障害の病原ウイルスとその検定法。
農業および園芸 54 (4) : 565-567.
89. 佐金信治 (1979).
温州ミカンの開花時期の早晩が着果率, 果実の品質に及ぼす影響。
徳島果試研報 8 : 1-10.
90. 和田英雄・音井 格・秋成 昇 (1979).
スタチの黄変落葉に関する一考察。
徳島果試研報 8 : 11-18.
91. 山尾正実・和田英雄 (1979).
ヤマモモ果実発育中における色素, 有機酸, 糖含量の変動について。
徳島果試研報 8 : 19-25.
92. 行成正昭 (1979).
ハマキアリガタバチの越冬習性に関する若干の観察例。
昆虫と自然 14 (5) : 29-30.
93. 赤井昭雄・中島光広・賀川 実 (1980).
ナシの降雹害。
徳島果試研報 9 : 1-6.
94. 賀川 実 (1980).
温州ミカンに対する多量要素の施用とミカンハダニの増殖。
徳島果試研報 9 : 19-23.
95. Miyakawa, T. (1980).
Occurrence and varietal distribution of tatter leaf-citrange stunt virus and its effects on Japanese citrus.
p.220-224. In E. C. Calavan *et al.* (eds.), Proc. 8th. Conf. Intern. Organization Citrus Virol. IOCV, Riverside, CA.
96. 宮川経邦 (1980).
実験条件下におけるカンキツリクピン (citrus greening disease) の宿主域とその病徴。
日植病報 46 : 224-230.
97. 宮川経邦・脇川勝美 (1980).
カラタチ台における実生系ポンカンの生育とウイルス感染による接木部異常症状の発現。
四国植防研究 15 : 57-61.
98. 宮川経邦 (1980).
高温処理による tatter leaf virus 感染カンキツの無毒化。
徳島果試研報 9 : 7-11.
99. 行成正昭 (1980).
チャノコカクモンハマキの人工飼料中の防腐剤がハマキアリガタバチの発育に及ぼす影響。
徳島果試研報 9 : 13-18.
100. 行成正昭 (1980)
徳島県のナシ園およびその周辺生垣におけるハマキガ類幼虫の寄生性天敵昆虫の寄生活動。
四国植防研究 15 : 5-22.

101. 行成正昭 (1980)
ハマキアリガタバチの新寄主の観察例。
昆虫と自然 15(3) : 11.
102. 井内 晃・永井洋三・山本滝子・柴田精治・赤井昭雄 (1981).
スピードプレーヤー (SS) のオペレーターに対する農薬の付着防止。
徳島農試研報 19 : 38-43.
103. 宮川経邦 (1981).
カンキツトリステザウイルス弱毒系の分離とその利用。
農業および園芸 56(8) : 1061-1062.
104. 行成正昭 (1981).
徳島県におけるアトウスキハマキの生活史ならびにその寄生性昆虫。
応動昆 25(2) : 127-129.
105. 村上 来 (1982).
ビワの日焼け症の発生実態とその防除。
徳島果試研報 10 : 13-21.
106. 佐金信治 (1982).
ウンシュウミカンの摘果方法の相違が翌年の着花におよぼす影響。
徳島果試研報 10 : 1-6.
107. 和田英雄・山尾正実 (1982).
ヤマモモ樹の生理生態に関する研究
第2報 果実中ならびに葉中無機成分。
徳島果試研報 10 : 7-12.
108. 定作 昭 (1983).
ハッサク果実の形質に及ぼす授粉樹混植の影響。
徳島果試研報 11 : 1-8.
109. 宮川経邦・辻 雅人・音井 格 (1983).
トリステザウイルス弱毒系によるユズステムピッキング病の発病阻止。
徳島果試研報 11 : 9-13.
110. 和田英雄 (1983).
ヤマモモ樹の生理生態に関する研究
(第3報) ヤマモモ園土壌の化学性
土壌 pH, 窒素施用がヤマモモ実生の生育と養分吸収に及ぼす影響。
徳島果試研報 11 : 14-21.
111. 宮川経邦 (1983).
高温処理によってタターリーフウイルスを無毒化したカンキツ苗木の生育。
農業および園芸 58(4) : 585-586.
112. Kozaki, J., S. Nakagaki, R. Sato, M. Yukinari, H. Sugie, H. Noguchi, Y. Tamaki (1984).
Sex Pheromone of the Common Apple Leafroller, *Hoshinoa longicellana* Walsingham (Lepidoptera: Tortricidae) Isolation and Identification.
Appl. Ent. Zool. 19(3) : 382-388.
113. 佐金信治・黒上九三郎 (1984).
収穫後の高温処理がスダチ果実の緑色保持に及ぼす影響。
徳島果試研報 12 : 1-8.
114. 和田英雄・山尾正実・赤井昭雄・森 聡 (1984).
徳島平野東部の水田転換ナシ園におけるクロロシスについて。(第1報) 発生状況, 葉中無機成分および土壌化学性。
徳島果試研報 12 : 9-16.
115. 大和浩国 (1984).
ニホンナシの枝枯病について。
徳島果試研報 12 : 17-27.
116. 行成正昭 (1984).
ナシ園およびその周辺生垣におけるハマキガ類の寄生性天敵昆虫と第2次寄生蜂。
四国植防研究 19 : 77-84.
117. 長谷部秀明・黒上九三郎 (1985).
ウメの夏季せん定が結実および新梢生長におよぼす影響。
徳島果試研報 13 : 1-6.
118. 行成正昭・賀川 実 (1985).
ヤノネカイガラムシに対する導入寄生蜂ヤノネキイロコバチの越冬状況と寄主との同調性。
徳島果試研報 13 : 7-16.

119. 山尾正実 (1985).
オガ腐堆肥施用土壤中のフェノール化合物の分析.
徳島果試研報 13:17-20.
120. 音井 格・中川正視 (1986).
十万温州ミカンの更新方法に関する研究.
徳島果試研報 14:1-10.
121. 佐金信治・黒上九三郎・谷田吉成・西森靖徳 (1986).
ヒートポンプによる成熟期のハウスミカンの夜間冷却処理.
徳島果試研報 14:11-20.
122. 和田英雄・森 聡・赤井昭雄 (1986).
徳島平野東部の水田転換ナシ園におけるクロロシスについて。(第2報)キレート鉄の施用効果.
徳島果試研報 14:21-29.
123. 行成正昭・坂東治男 (1986).
ナシ園およびその周辺生垣イヌマキにおけるクモ類相の比較.
四国植防研究 21:101-109.
124. 長谷部秀明・黒上九三郎 (1987)
ウメの夏季せん定程度が根の重さと炭水化物含量に及ぼす影響.
徳島果試研報 15:1-6.
125. 森 聡・細井寅三・大石 惇 (1987).
ウンシュウミカンの芽培養における培養条件の検討.
徳島果試研報 15:7-17.
126. 行成正昭 (1987).
ヤノネカイガラムシの導入寄生蜂と第2次寄生蜂.
徳島果試研報 15:18-23.
127. 行成正昭 (1987).
数種カイガラムシに対するヤノネキイロコバチの寄生例.
四国植防研究 22:99-104.
128. 行成正昭 (1988).
ヤマモモ果実を加害するショウジョウバエの観察例.
応動昆 32(2):146-148.
129. Miyakawa, T. and M. Tuji. (1988).
The Association of Virus with Budunion Crease of Trees on Trifoliate Orange Rootstock.
Proc. 10th Conf. Intern. Organization Citrus Virol. :360-364.
130. 小池 明 (1988).
スダチの胚培養による交雑実生の獲得について.
徳島果試研報 16:1-8.
131. 赤井昭雄・清水 昇 (1988).
キウイフルーツの人工受粉に関する研究.
徳島果試研報 16:9-23.
132. 柴田好文 (1989).
無核種スダチの果実肥大に及ぼすジベレリン, ベンジルアデニンおよび受粉の影響について.
徳島果試研報 17:1-10.
133. 行成正昭 (1989).
ウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシの幼虫ふ化消長と寄生性天敵昆虫.
徳島果試研報 17:11-20.
134. 辻 雅人・大和浩国・定作 昭・宮川経邦・脇川勝美 (1989).
ステムピッティング病(萎縮病)対策のためのハッサク母樹の選抜とその経過.
徳島果試研報 17:21-28.
135. 行成正昭 (1989).
カキノキカキカイガラムシの寄主植物.
応動昆 33(4):252-257.
136. 森 聡 (1990)
十万温州の着花と栄養成分との関係.
徳島果試研報 18:1-10.
137. 佐金信治・柴田好文・佐尾山祥史・長谷部秀明・音井 格・黒上九三郎 (1990).
極早生ウンシュウミカンの果実品質特性.
徳島果試研報 18:11-23.
138. 行成正昭 (1990).
カキノキカキカイガラムシの発生と分布

- 拡大。
植物防疫 44(2) : 51-56.
139. 行成正昭 (1990).
徳島県内各地のヤマモモにおけるカキノ
キカキカイガラムシの天敵昆虫の活動状
況。
四国植防研究 15 : 77-83.
140. 柴田好文・長谷部秀明・佐金信治・佐尾山祥
史・安宅雅和 (1991).
'十万'温州の摘果方法による隔年結果の
是正について。
徳島果試研報 19 : 1-14.
141. 長谷部秀明・佐金信治・柴田好文・佐尾山祥
史 (1991).
ワセウンシュウミカンの越年果の果実品
質について。
徳島果試研報 19 : 15-23.
142. 行成正昭 (1991).
徳島県のカンキツにおけるハランナガカ
イガラムシの発生生態とその天敵に関す
る観察例。
四国植防研究 26 : 101-108.
143. 長谷部秀明・安宅雅和・森 聡・柴田好文
(1992).
ワセウンシュウミカンの土壤被覆処理が
果汁中の糖含量および糖組成に及ぼす影
響。
徳島果試研報 20 : 1-10.
144. 小池 明 (1992).
堆肥の施用が新規開園土壌の理化学性な
らびにモモ樹の生育と果実品質に及ぼす
影響。
徳島果試研報 20 : 11-22.
145. 行成正昭 (1992).
徳島県におけるカンキツ害虫、数種カイ
ガラムシの寄生性天敵昆虫。
徳島果試研報 20 : 23-34.
146. 中西友章・行成正昭 (1992).
カンキツ園におけるゴマグラカミキリ防
除ネットの効果。
四国植防研究 27 : 71-76.
147. 谷 博・井内 晃・行成正昭・中西友章
(1992).
ヤマモモ果実に寄生するショウジョウバ
エに対する各種薬剤の残留と防除効果。
徳島農試研報 28 : 48-53.
148. 柴田精治・小池 明・長谷部秀明 (1993).
補光がハウス栽培ナシ'幸水'の果実発育
および新梢伸長に及ぼす影響。
徳島果試研報 21 : 1-13.
149. 山尾正実・小池 明・音井 格・徳永忠士・
定作 昭 (1993).
スタチ 4 倍体果実の特性と胚培養。
徳島果試研報 21 : 14-22.
150. 行成正昭・中西友章 (1994).
カンキツカイガラムシの寄生蜂に対する
農薬の影響。
徳島果試研報 22 : 1-13.
151. 徳永忠士・山尾正実 (1994).
電気融合法によるスタチとユズの体細胞
雑種の獲得
徳島果試研報 22 : 14-20.

(2) 学会発表講演要旨

1. 前田 知 (1954).
柿炭そ病菌の冬芽越冬について。
園芸学会昭和29年度秋季大会研究発
表要旨 : 1.
2. 宮川経邦 (1956).
Penicillium digitatum および *P. italicum* の温州果実に対する感染経過
について。
日植病報 21(2-3) : 115.
3. 宮川経邦・森下 実 (1957).
本邦における柑橘根線虫の生態および分
布。
園芸学会昭和32年度春季大会研究発
表要旨 : 12.
4. 宮川経邦 (1957).
オルソ・フェニール・フェノール燻煙剤

- の拡散, 付着および消失。
日植病報 22(1) : 30.
5. 前田 知・塩田芳之 (1958).
柿果実の呼吸に関する研究。
園芸学会昭和33年度春季大会研究発表要旨 : 10.
6. 宮川経邦 (1958).
Penicillium digitatum 胞子の発芽を促進する柑果皮成分について。
日植病報 23(1) : 20-21.
7. 宮川経邦 (1958).
貯蔵温州蜜柑に対する緑かびおよび青かび病の感染, 発病経過。
園芸学会昭和33年度秋季大会研究発表要旨 : 10.
8. 前田 知・多田良行・城浦治男 (1959).
カキ果実の蒂の機能に関する研究 (第1報) 蒂部裂果現象の観察ならびに果実の滲透圧との関係。
園芸学会昭和34年度春季大会研究発表要旨 : 8.
9. 宮川経邦 (1959).
Penicillium 属菌の生育と柑果成分。
日植病報 24(1) : 19.
10. 前田 知・多田良行・城浦治男 (1959).
カキ果実の蒂の機能に関する研究 (第3報) カキ果実の通水性, 蒸散作用と落果との関係。
園芸学会昭和34年度秋季大会研究発表要旨 : 5.
11. 前田 知・多田良行・城浦治男 (1959).
カキ果実の蒂の機能に関する研究 (第5報) カキ果実における生長調製物質の消長。
園芸学会昭和34年度秋季大会研究発表要旨 : 5.
12. 宮川経邦・賀川 実 (1959).
ミカンネセンチュウ (*Tylenchulus semipenetrans*) の生態と防除に関する2, 3の実験。
園芸学会昭和34年度秋季大会研究発表要旨 : 10.
13. 前田 知・多田良行 (1960).
カキ果実の蒂の機能に関する研究 (第4報) カキ果実諸器官の季節的発育過程。
園芸学会昭和35年度春季大会研究発表要旨 : 1.
14. 宮川経邦 (1960).
Penicillium 属菌の pectin 分解酵素。
日植病報 25(1) : 28.
15. 山本弥栄・森岡節夫 (1960).
温州ミカンの浮皮に対する研究 (第1報)。
園芸学会昭和35年度春季大会研究発表要旨 : 6.
16. 安達義正・中島芳和・堀金正己 (1960).
温州ミカンに対するウレアフォルム施肥の研究。
園芸学会昭和35年度秋季大会研究発表要旨 : 7.
17. 賀川 実 (1960).
ヤノネカイガラムシの生態および防除について。
園芸学会昭和35年度秋季大会研究発表要旨 : 5.
18. 安達義正・中島芳和・堀金正己 (1961).
温州ミカンのりん酸施肥に関する研究。
園芸学会昭和36年度春季大会研究発表要旨 : 7.
19. 安達義正・中島芳和・堀金正己 (1961).
温州ミカンの養分吸収に関する研究 着果樹, 不着果樹の時期的養分吸収。
園芸学会昭和36年度春季大会研究発表要旨 : 7.
20. 山本弥栄・森岡節夫 (1962).
温州ミカンの浮皮に関する研究 (第2報)。
園芸学会昭和37年度秋季大会研究発表要旨 : 17.
21. 森岡節夫・山本弥栄 (1962).

- 温州ミカンの貯蔵に関する研究 果実の減量について。
園芸学会昭和37年度秋季大会研究発表要旨 : 18.
22. 中島芳和・大和浩国 (1962).
カンキツの生育障害と無機成分との関係 (第1報) ユズ, カラタチ実生の生育限界濃度。
園芸学会昭和37年度秋季大会発表要旨 : 19.
23. 中島芳和 (1962).
カンキツの生育障害と無機成分との関係 (第2報) 温州ミカンの葉枯症と無機成分の分布。
園芸学会昭和37年度秋季大会研究発表要旨 : 20.
24. 前田 知・城浦治男 (1963).
長十郎ナシに対する RP 剤の利用試験 (第1報) RP 剤の種類, 濃度, 散布時期と熟期促進効果との関係。
園芸学会昭和38年度春季大会研究発表要旨 : 8.
25. 山本弥栄・森岡節夫・真鍋 糺 (1963).
カンキツ園における除草剤利用の研究 (第2報) 春草に対する効果および薬害について。
園芸学会昭和38年度春季大会研究発表要旨 : 15.
26. 城浦治男・村上 來・前田 知 (1963).
カキ果実の着色に及ぼす RP 剤の効果。
園芸学会昭和38年度春季大会研究発表要旨 : 49.
27. 前田 知・多田良行・城浦治男・福居幸治 (1963).
富有カキの季節的乾燥処理と果実発育の関係調査。
園芸学会昭和38年度春季大会研究発表要旨 : 49.
28. 中川正視・音井 格 (1963).
加温によるユズ台温州ミカン苗木の養成に関する研究。
園芸学会昭和38年度春季大会研究発表要旨 : 49.
29. 村上 來・前田 知 (1963).
早生モモのジベレリン処理効果試験。
園芸学会昭和38年度春季大会研究発表要旨 : 50.
30. 宮川経邦 (1963).
Penicillium expansum の maceration および polygalacturonase 作用について。
日植病報 28(2) : 75.
31. 中島芳和・大和浩国 (1963).
カンキツの生育障害と無機成分との関係 (第3報) ユズ, カラタチ台温州ミカンの生育限界濃度。
園芸学会昭和38年度秋季大会研究発表要旨 : 5.
32. 中島芳和・堀金正己 (1963).
温州ミカンのマンガン欠乏。
園芸学会昭和38年度秋季大会研究発表要旨 : 17.
33. 福居幸治・前田 知 (1963).
クリのモモゴマグラメイガ防除試験。
園芸学会昭和38年度中四国支部大会発表要旨 : 8.
34. 多田良行・福居幸治 (1963).
ブドウ晩腐病防除に関する試験。
園芸学会昭和38年度中四国支部大会発表要旨 : 8.
35. 城浦治男・多田良行・前田 知 (1963).
カキ炭そ病に対する薬剤防除試験。
園芸学会昭和38年度中四国支部大会発表要旨 : 10.
36. 安達義正・中川正視・音井 格 (1963).
温州ミカンの水田転作による問題点の究明 (第1報)。
園芸学会昭和38年度中四国支部大会発表要旨 : 12.
37. 中川正視・柴田精治 (1964).

- 青ウメの貯蔵鮮度に関する研究。
園芸学会昭和39年度中四国支部大会
発表要旨 : 4.
38. 山本弥栄・森岡節夫・定作 昭 (1964).
カンキツ園の除草剤作用に関する研究
(第3報) 強勢雑草の殺草効果とカラタ
チ実生に対する薬害について。
園芸学会昭和39年度秋季大会研究発
表要旨 : 13.
39. 安達義正・中川正視・音井 格 (1964).
土壌水分がユズおよびカラタチ台温州ミ
カンの生育におよぼす影響。
園芸学会昭和39年度秋季大会研究発
表要旨 : 53.
40. 中川正視・柴田精治 (1964).
青ウメの貯蔵鮮度に関する研究。
園芸学会昭和39年度秋季大会研究発
表要旨 : 55.
41. 山本弥栄・黒上九三郎・森岡節夫 (1965).
カンキツ園の除草剤利用に関する研究
(第4報) 除草剤が各種果樹の生育にお
よぼす影響。
園芸学会昭和40年度春季大会研究発
表要旨 : 8.
42. 山本弥栄・森岡節夫・真鍋 紘 (1965).
ユズ台温州の生理生態に関する研究 (第
1報) 根群の活動調査。
園芸学会昭和40年度春季大会研究発
表要旨 : 9.
43. 宮川経邦 (1966).
温州萎縮病ウイルスに対するカラタチ,
ユズおよびシトレンジの感受性と病徴。
園芸学会昭和41年度秋季大会研究発
表要旨 : 41.
44. 安達義正・山本弥栄・和田英雄・黒上九三郎・
堀金正己・音井 格 (1996).
ユズ台温州の生理生態に関する研究 (第
2報) 解体調査。
園芸学会昭和41年度秋季大会研究発
表要旨 : 71-72.
45. 大和浩国 (1996).
ハッサクのヤニ果症に関する調査。
園芸学会昭和41年度秋季大会研究発
表要旨 : 77.
46. 賀川 実 (1996).
温州ミカンに対するサンホーゼカイガラ
ムシの加害生態と幼虫の発生消長につい
て。
園芸学会昭和41年度秋季大会研究発
表要旨 : 45.
47. 宮川経邦 (1967).
温州萎縮病ウイルスに対する *Citrus* 属
および近縁植物の感受性と病徴。
日植病報 33(2) : 103.
48. 宮川経邦 (1967).
ハッサク萎縮病 (stem pitting) ウイルス
に対する *Citrus* 属の感受性と反応。
日植病報 33(5) : 339.
49. 陳 明雄・宮川経邦・松井千秋 (1967).
ハッサク萎縮病のウイルス粒子。
日植病報 33(5) : 341.
50. 前田 知・村上 来・行成正昭 (1968).
ウメの樹脂障害果に関する研究(第1報)
樹脂障害果の発生生態と組織学的観察。
園芸学会昭和43年度中四国支部大会
発表要旨 p.306.
51. 宮川経邦 (1968).
わが国のカンキツが保毒する *tristeza*
virus の系統。
日植病報 34(3) : 203.
52. 大和浩国 (1968).
ハッサク萎縮病罹病組織の解剖的所見。
日植病報 34(3) : 203.
53. 大和浩国 (1968).
温州ミカン枯枝中に形成されたカンキツ
黒点病菌の完全時代について。
日植病報 34(5) : 390.
54. 黒上九三郎・中川正視・佐金信治・山本弥栄
(1968).
温州ミカンの品質と味覚試験との関係。

- 園芸学会昭和43年度秋季大会研究発表要旨 : 108.
55. 安達義正・山本弥栄・柴田精治 (1968).
温州ミカンの貯蔵に関する研究(第1報)
貯蔵庫様式による貯蔵性比較試験.
園芸学会昭和43年度秋季大会研究発表要旨 : 298-299.
56. 山本弥栄・柴田精治 (1969).
ハッサク, 甘夏ミカンの凍害果の貯蔵中の内容成分の変化.
園芸学会昭和44年度春季大会研究発表要旨 : 312-313.
57. 宮川経邦 (1969).
Citrus 属検定植物の反応からみたわが国の *tristeza virus complex*.
日植病報 35(2) : 131.
58. 中川正視・柴田精治・前田 知・真淵敏治 (1970).
シエーカーによるウメの収穫試験.
園芸学会昭和45年度春季大会研究発表要旨 : 352.
59. 宮川経邦 (1970).
温州ミカンに保毒される *tristeza virus* 系統間の干渉作用.
日植病報 36(3) : 192.
60. 大和浩国 (1971).
カンキツ黒点病菌の完全時代の形成について.
日植病報 37(3) : 171-172.
61. 宮川経邦 (1971).
鹿児島県南部におけるカンキツウイルスの検定.
日植病報 37(3) : 199.
62. 宮川経邦 (1971).
わが国に分布する *tristeza virus complex* に対するカンキツの感受性と病徴.
園芸学会昭和46年度秋季大会研究発表要旨 : 8.
63. 脇川勝美・大和浩国・宮川経邦 (1971).
萎縮病対策のためのハッサク母樹の選抜と育成.
- 園芸学会昭和46年度秋季大会研究発表要旨 : 10.
64. 宮川経邦 (1972).
沖縄および先島におけるカンキツの病害.
日植病報 38(3) : 212.
65. 陳 明雄・宮川経邦・松井千秋 (1972).
リクピン罹病樹内におけるマイコプラズマ様微生物の偏在.
日植病報 38(3) : 215-216.
66. 音井 格 (1972).
温州ミカンの花蕾の着生について.
園芸学会昭和47年度中四国支部大会発表要旨 : 10.
67. 佐金信治 (1972).
温州ミカンの開花の早晩が着果率, 品質におよぼす影響について.
園芸学会昭和47年度中四国支部大会発表要旨 : 11.
68. 音井 格・中川正視 (1972).
ユズの貯蔵に関する研究.
園芸学会昭和47年度中四国支部大会発表要旨 : 21.
69. 村上 来・前田 知・黒上九三郎 (1973).
ウメの樹脂障害果の発生防止に関する研究(第2報) 樹脂障害果の特徴と発生状態ならびに程度別葉分析.
園芸学会昭和48年度春季大会発表要旨 : 90-91.
70. 村上 来・前田 知・黒上九三郎 (1973).
ウメの樹脂障害果の発生防止に関する研究(第3報) ほう素と樹脂障害果との関係ならびに葉面散布効果.
園芸学会昭和48年度春季大会発表要旨 : 92-93.
71. 宮川経邦・水流 洋 (1973).
カラタチ台温州ミカンの接木部障害の伝染性.
園芸学会昭和48年度秋季大会発表要旨 : 100.

72. 佐金信治 (1973).
NAA 散布が温州ミカンの品質・貯蔵性に及ぼす影響について.
園芸学会昭和48年度秋季大会発表要旨 : 453.
73. 大和浩国 (1973).
カンキツに病原性を有する *Diaporthe* 属菌の一種について.
日植病報 39(2) : 157.
74. 宮川経邦 (1973).
Tristeza virus と重複感染した citrus greening disease の検定.
日植病報 39(3) : 219.
75. 宮川経邦 (1974).
わが国の主要カンキツ品種および近縁植物における likubin (greening disease) の病徴.
日植病報 40(3) : 231.
76. 黒上九三郎・柴田精治・赤井昭雄・前田 知 (1974).
早生ナシの立体的垣根栽培 (第1報) 樹形および品種別生態・収量について.
園芸学会昭和49年度秋季大会発表要旨 : 36-37.
77. 定作 昭・行成正昭・黒上九三郎 (1974).
ハッサクの手もぎ採収法に関する研究.
園芸学会昭和49年度秋季大会発表要旨 : 104-105.
78. 宮川経邦 (1974).
わが国のカンキツにおける *tristeza virus* 被害の考察.
園芸学会昭和49年度秋季大会発表要旨 : 130-131.
79. 行成正昭 (1974).
リンゴコカクモンハマキの寄生性天敵ハマキアリガタバチの生態学的研究.
応動昆大会講要 : 325.
80. 村上 來 (1975).
ビワの異常障害果の発生とその防止法に関する研究 (第1報) 異常障害果の発生
実態ならびに雨量、ほう素含量と発生との関係.
園芸学会昭和50年度秋季大会発表要旨 : 64-65.
81. 長谷部秀明・中川正視 (1975).
温州ミカンの糖・酸含量と変動について (第1報) 地域を単位とした貯蔵ミカンの糖・酸含量と変動について.
園芸学会昭和50年度秋季大会発表要旨 : 482.
82. 長谷部秀明 (1975).
温州ミカンの糖・酸含量と変動について (第2報) 同一園での貯蔵ミカンの糖・酸含量と変動について.
園芸学会昭和50年度秋季大会発表要旨 : 483.
83. 宮川経邦 (1975).
温州ミカンから分離した citrus crinkly leaf 類似のウイルス.
日植病報 41(3) : 286-287.
84. 大和浩国 (1976).
和ナシに寄生する2種の *Diaporthe* 属菌について.
日植病報 42(3) : 351.
85. 宮川経邦・川合 昭・本田要八郎・松井千秋 (1976).
わが国における citrus tatter leaf-citrangle stunt virus の発生.
日植病報 42(3) : 385.
86. 本田要八郎・陳 明雄・宮川経邦・松井千秋 (1976).
Citrus likubin 病原体の宿主域.
日植病報 42(3) : 388-389.
87. 赤井昭雄・柴田精治・中川正視 (1976).
ポリリン酸系葉面散布剤によるハウスパドウ (テラウエア) の熟期促進について.
園芸学会中四国支部昭和51年度大会発表要旨 : 24.
88. 定作 昭・行成正昭・中川正視・山本博之・武市誠介・市原善文 (1977).

- スダチの周年供給体系に関する研究（第1報）ハウス栽培の特性について。
園芸学会昭和52年度秋季大会発表要旨：42-43.
89. 宮川経邦 (1977).
ポンカンに保毒されるウイルスとそれらのカンキツへの影響。
園芸学会昭和52年度秋季大会発表要旨：68-69.
90. 宮川経邦 (1977).
Citrus tristeza virus によるユズの衰弱症状。
日植病報 43 (1) : 100-101.
91. 大和浩国 (1977).
ナシの枝枯れに關与する *Botryosphaeria* 属菌。
日植病報43(3) : 324.
92. 宮川経邦・松井千秋 (1977).
テトラサイクリンおよびペニシリンによるリクピン (citrus greening disease) の感染阻止効果。
日植病報 43(3) : 361.
93. 大和浩国 (1978).
ナシの枝枯病に關与する *Botryosphaeria dothidea* の菌株による病原力の差異。
日植病報 44(3) : 373.
94. 長谷部秀明・佐金信治・音井 格・黒上九三郎 (1979).
ポリフィルム袋によるスダチの貯蔵について。
園芸学会中四国支部昭和54年度大会発表要旨：17.
95. 賀川 実 (1979).
ハウスミカン害虫の生態および防除に関する知見。
園芸学会中四国支部昭和54年度大会発表要旨：23.
96. 黒上九三郎・佐金信治・音井 格・長谷部秀明・前田 知 (1979).
ウンシュウミカンの棚仕立の収量および
- 果実の外観・品質。
園芸学会中四国支部昭和54年度大会発表要旨：19.
97. 黒上九三郎・佐金信治・音井 格・長谷部秀明・前田 知 (1979).
ウンシュウミカンの棚仕立とは場管理労力。
園芸学会中四国支部昭和54年度大会発表要旨：18.
98. 宮川経邦 (1979).
わが国のカンキツに保毒される tatter leaf (citrange stunt) virus と Citrus 検定植物。
日植病報 45(4) : 569 : 570.
99. 宮川経邦 (1979).
ウイルス感染によるカラタチ台カンキツの接木部障害。
園芸学会昭和54年度春季大会発表要旨：26-27.
100. 音井 格・中川正視 (1979).
温州ミカンの更新方法に関する研究。
園芸学会中四国支部昭和54年度大会発表要旨：20.
101. 柴田精治・赤井昭雄・中島光広 (1979).
ナシの三角波状だなについて。
園芸学会中四国支部昭和54年度大会発表要旨：11.
102. 和田英雄・山尾正実・小倉 公 (1979).
新甘夏の葉先黄化 (ホウ素過剰ならびにカリ欠乏) について。
園芸学会中四国支部昭和54年度大会発表要旨：21.
103. 黒上九三郎・佐金信治・音井 格・長谷部秀明・前田 知 (1980).
ウンシュウミカン棚仕立樹の生理生態
園芸学会中四国支部昭和55年度大会発表要旨：20.
104. 宮川経邦 (1980).
高温生育処理による citrus tatter leaf (citrange stunt) virus 感染カンキツの

- 無毒化。
日植病報 46(3) : 416.
105. 大和浩国 (1980).
カキの胴枯れに關与する *Botryosphaeria dothidea*.
日植病報 46(1) : 98.
106. 宮川経邦 (1981).
弱毒化したカンキツ樹におけるトリステザウイルス感染阻止効果。
日植病報 47(1) : 129.
107. 大和浩国 (1982).
ブドウつるわれ症状に關与する *Phomopsis* 属菌。
日植病報 48(1) : 118.
108. 宮川経邦 (1983).
Tristeza virus (Seedling yellows) の感染によるセミノールタンゼロの卷葉症状。
日植病報 49(3) : 442.
109. 大和浩国 (1983).
ナシのボトリオデプロディア枝枯病について。
日植病報 49(3) : 401-402.
110. 佐金信治・長谷部秀明・音井 格・黒上九三郎 (1983).
スタチの貯蔵温度と貯蔵性。
昭和58年度園芸学会秋季大会研究発表要旨 : 426-427.
111. 長谷部秀明・黒上九三郎 (1984).
ウメの夏季せん定が結実と徒長枝の側枝化に及ぼす影響。
園芸学会昭和59年度秋季大会研究発表要旨 : 126-127.
112. 大和浩国 (1985).
ウメの枝枯病 (新称) について。
日植病報 51(1) : 80.
113. 柴田好文・賀川 実 (1986).
スタチの果実肥大に及ぼす GA, BA および受粉の効果。
園芸学会中四国支部昭和61年度大会発表要旨 : 27.
114. 長谷部秀明・佐金信治・柴田好文・佐尾山祥史 (1990).
ワセウンシュウの越年果の品質。
園学雑 59 (別2) : 774.
115. 柴田好文・長谷部秀明・佐金信治・佐尾山祥史 (1990).
‘十万’ウンシュウミカンの摘果方法と隔年結果。
園学雑 59 (別2) : 781.
116. 長谷部秀明・佐金信治・柴田好文・佐尾山祥史 (1990).
‘十万’ウンシュウミカンの局部全摘果の時期と隔年結果について。
園学雑 59 (別2) : 782.
117. 柴田精治・小池 明 (1990).
ナシの補光栽培試験。
園学雑 59 (別2) : 790.
118. 辻 雅人・宮川経邦 (1991).
ユズおよびウンシュウにおけるカンキツトリステザウイルス弱毒系統の干渉効果。
日植病報 57(2) : 462.
119. 山尾正実・徳永忠士 (1992).
スタチにおける倍数性育種。
日本育種学会四国談話会会報 26 : 41-42.

(3) 特別報告

1. 宮川経邦 (1962).
Penicillium 属菌による柑果腐敗病の発病機構に關する研究。
徳島果試特別報告 1 : 1-68.
2. 前田 知 (1968).
柿果における蒂の組織学的ならびに生理学的研究。
徳島果試特別報告 2 : 1-51.
3. 黒上九三郎 (1984).
ウンシュウミカンの棚仕立栽培に關する研究。
徳島果試特別報告 3 : 1-64.
4. 佐金信治 (1986).

スタチの貯蔵に関する研究.

徳島果試特別報告 4 : 1 - 82.

5. 長谷部秀明 (1988).

夏季せん定によるウメの生産安定に関する研究.

徳島果試特別報告 5 : 1 - 58.

3) 出版物目録

1. 徳島県果樹試験場業務報告 昭和29年度～平成5年度
2. 徳島県果樹試験場果樹試験成績書 平成2年度～平成5年度
3. 徳島県果樹試験場研究報告 1号 (昭和42年3月)～22号 (平成6年3月)
4. 果樹試験場業績目録
 - 1号 (昭和48年9月) 昭和28年～昭和47年
 - 2号 (// 53年9月) 昭和48年～昭和52年
 - 3号 (// 58年3月) 昭和53年～昭和57年
 - 4号 (// 63年12月) 昭和58年～昭和62年
 - 5号 (平成5年10月) 昭和63年～平成4年
5. 果試ニュース 1巻 (昭和45年)～75巻 (平成6年)
6. 果樹試験場特別報告 1号 (昭和37年)～5号 (昭和63年)
7. 徳島果樹試験場実用化技術レポート
 - 1号 (平成3年) ヤノネカイガラムシの生物的防除
 - 2号 (平成3年) ウメの夏季せん定
 - 3号 (平成5年) 十万温州の隔年結果防止
 - 4号 (平成6年) 高糖系温州ミカンのビニールマルチ栽培
 - 5号 (平成6年) ハウスミカンの加温開始時期の判定方法
8. 果樹等病害虫発生予察実験事業成績 昭和34年～37年
果樹等病害虫発生予察事業調査成績書 昭和38年～45年
果樹等病害虫発生予察事業年報 昭和40年～47年
農作物有害動植物発生予察事業年報 昭和48年

～平成3年

9. 果樹試験場10年の歩み 昭和38年11月
10. ミカンの貯蔵と栽培 昭和45年7月
安達義正編 (農業図書)
11. 温暖寡雨地帯におけるカンキツの品質改善に関する研究 昭和46年5月
(果実管理と品質に関する研究成績)
12. ユズ台温州ミカンの特性 (四国農業試験場編) 昭和47年3月
13. 上板分場30年のあゆみ (上板分場創立30周年記念) 昭和54年3月
14. 種苗特性分類調査報告書 (香酸カンキツ) 昭和56年3月
(ユズおよびユズの血を引く品種, 橙, レモンおよび雑品種)
15. 寒害の実態調査結果と栽培技術上の問題点 (四国農業試験場編) 昭和57年3月
徳島県における寒害被災地の回復経過の実態と問題点 (四国農業試験場編) 昭和60年1月
徳島県における寒害回復の技術対応と効果 (四国農業試験場編) 昭和60年1月
16. 岩倉母樹園の四半世紀 昭和62年3月

4) 年 表

年 月 日	事 項
昭和28年 6月 28年10月	県議会において果樹試験場建設3カ年計画承認 果樹試験場設置規則施行
29年 3月	初代安達義正場長着任
29年 4月	建物敷地建設開始
29年 7月	建物敷地完成
30年 7月	農事試験場より生比奈柑橘試験地，大山果樹試験地の移管を受け，前者は果樹試験場の一部とし，後者は上板分場と称す
30年11月	本場建築完成
31年 4月	果樹試験場練習生規程を制定し，養成開始
32年 7月	庶務係および研究係を設置する
33年10月	上板分場本館落成
34年 4月	果樹病虫害発生予察実験事業を，昭和38年度からは果樹等病虫害発生予察事業を分担する。
35年11月	新設された園芸特産課の所管となる
36年 4月	園芸特産課より岩倉母樹園の移管を受け，果樹試験場岩倉母樹園と称す。母樹の育成と優良穂木の配布および試験研究を開始
36年 9月	研究係を研究第一係および研究第二係とする
38年 7月	研究第一係を栽培係に，二係を病虫係および化学係とする
38年11月	「果樹試験場10年の歩み」刊行
40年 3月	上板分場にみかん園新設
40年 6月	栽培係，病虫係，化学係を養成係，栽培科，病虫科，化学科と改称
41年 4月	養成係および練習生規程を廃止，徳島県農業大学校果樹分校として発足
44年 4月	場長前田 知（2代）となる
46年 3月	天敵利用促進事業によりシルベストリーコバチの増殖施設完成（本場）
46年 3月	ナシ防除と施肥のスプリンクラー実験施設完成（分場）
47年 3月	天敵利用促進事業によりベグリアテントウムシ飼育室完成（分場）
47年 3月	ライシメーター施設工事完成
48年 5月	天敵利用促進事業によりルビーアカヤドリコバチの飼育増殖施設完成（本場）
48年 7月	本場260aの圃場にスプリンクラー施設設置される
49年 7月	農業気象観測用自記観測器設置される（本場）
49年 8月	保全林購入（本場）

54年3月	「上板分場30年のあゆみ」刊行
56年2月	本場本館用地造成工事起工
56年4月	場長宮川経邦（3代）となる
56年8月	本場本館起工式行われる
57年3月	本場本館改築竣工（本場整備費 473,298千円）
57年7月	本館落成式行われる
57年7月	警備業務委託（本場）
58年4月	岩倉母樹園を上板分場に統合し、県北分場として発足。岩倉母樹園は県北分場岩倉ほ場と改称
58年4月	勝浦土地改良区灌排事業に加入（本場）
59年4月	場長中川正視（4代）となる
59年9月	県教育委員会から板野高校実習地を県北分場板野ほ場として所管換え
59年10月	県北分場用地造成工事起工
60年3月	県北分場用地造成工事竣工
60年7月	県北分場本館新築工事竣工
61年2月	吉野川北岸農業用水の分水開始（分場）
61年3月	農業気象観測用自記観測器設置される（分場）
61年3月	60年度に母樹を板野ほ場に移植し岩倉ほ場閉鎖
61年4月	警備業務委託（分場）
61年9月	県北分場附属建物建築およびほ場整備工事起工
62年3月	県北分場附属建物建築およびほ場整備工事竣工（分場整備費 221,370千円）
62年3月	「岩倉母樹園の四半世紀」刊行
62年4月	場長賀川 実（5代）となる
62年4月	県北分場に落葉果樹科，母樹品種科，保護環境科が新設された
63年9月	第35回全国柑橘研究大会が徳島県で開催され，本場も視察コースとなった（1300名）
平成元年11月	本場管理資材棟新築工事起工
2年3月	本場管理資材棟新築工事竣工
2年4月	場長大和浩国（6代）となる
2年10月	本場貯蔵庫改築工事起工
3年3月	本場貯蔵庫改築工事竣工
5年3月	本場順化ガラス温室工事竣工
5年10月	第48回国民体育大会東四国大会でスダチの飾花事業に参画し，秋季に濃緑の果実や純白の花を展示
5年11月	未曾有の集中豪雨（時間雨量 112mm）により，本場および今山ほ場に崩壊箇所が生じた
6年4月	場長和田英雄（7代）となる